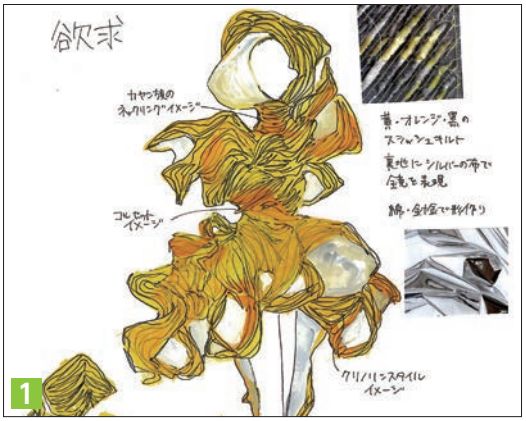
ID 1008394

「欲求」を通じ問い直す美への価値観



1井田さんが作成したデザイン画2日本橋三越本店（東京都）での受賞作品展示3左から、荻原さん、井田さん4作品の制作風景　※　作品は、11月14日（土）開催の宇都宮白楊高等学校の文化祭でも展示予定

宇都宮白楊高等学校　服飾デザイン科
井田（いだ）　凛華（りんか）さん（3年）
荻原（おぎわら）　海優（みひろ）さん（3年）

プロフィール

8月に青森県弘前市で最終審査会が行われた第25回全国高等学校ファッションデザイン選手権大会（ファッション甲子園2026）で、第3位に次ぐゲスト審査員特別賞（木村絵理子（きむらえりこ）賞）を受賞。

8月に、青森県弘前市で最終審査会が行われた、「ファッション甲子園２０２６」。宇都宮白楊高等学校3年生の井田凛華さん、荻原海優さんが、ゲスト審査員特別賞（木村絵理子賞）を受賞しました。同賞は第3位に次ぐ賞で、全国から１７１５作品の応募中、32作品が書類選考による1次審査を通過し、最終審査はファッションショー形式で行われました。

作品に込めた意図について、デザインをした井田さんは「過剰な美への追求から、内側から張り裂けて自壊していく様子を表現するため、表面は黄色と黒で蜂のような配色にして危険性を表し、生地にはあえて切り込みやほつれなどを施している。内側は鏡をイメージした銀色のエナメル生地にすることで、作品を通して美しさや正しさの価値観を問い直して欲しいという思いを込めている」と語ります。デザイン画は5種類作成し、書類選考を通過したのは、最後に1時間で書き上げ「欲求」と名付けた作品でした。

最終審査で作品を着用し、ランウェイを歩いた荻原さんは「自分たちの出番は32番目で最後だったが、作品に自信があったため緊張はしなかった。色々な人たちに、作品を通して自分たちを表現したいという気持ちが強かった」と振り返ります。

作品の制作期間は2カ月半に及び、中でも生地の作成には、合計で60時間ほどを要したと話します。制作中に苦労した点について井田さんは「デザインした時点では、立体にした際に衣服として着用できる機能を持たせるところまで考え切れていなかったため、二人で実際に制作しながら試行錯誤を繰り返し、完成にこぎ着けた」と笑顔を見せます。

今後の目標について井田さんは「自分にとって、衣服の制作はあくまで表現のための技法や手段の1つ。今後も絵画や立体造形なども含めて作品を制作し、将来的にはデザイナーとして自分の思想を伝えていきたい」、荻原さんは「ファッションはもはや自分の一部で、今の自分はそれ無しでは考えられない。今後はSNSなどで自分の世界観ややりたいことを発信していきたい」と熱を込めます。

チームワークで見事に賞を掴んだ二人。自己表現の欲求と真摯に向き合いながら、それぞれの未来へと歩を進めます。